JAWS
Japan Animal Welfare Society
2007.10
55
発行人：山下眞一郎
編集人：山下陽司
〃　：山口千津子
編集協力：平山企画舎

発行／社団法人日本動物福祉協会　〒141-0031 東京都品川区西五反田8-1-8 中村屋ビル内　TEL(03)5740-8856　FAX(03)5496-0930　ホームページ http://www.jaws.or.jp

◆第55号　主な内容◆

□「新潟県中越沖地震　被災動物の状況報告…1～2
■捨て犬・捨て猫防止キャンペーン……2
□視察……3
セミナーのご案内……3
トニー・クリッテンデン氏来日講演……4～5
劣悪飼育管理の犬殖業者が破綻……5
□寄付者ご芳名……6
□事務局から……7
□JAWSジュニアコーナー……8

新潟県中越沖地震

被災動物の状況報告

平成19年7月16日（月）－海の日－に発生した新潟県中越沖地震は、平成16年10月23日に起きた新潟県中越地震の記憶がまだ冷めやらぬなか、「まさか、こんなにすぐまた発生するなんて…」というショッキングな出来事でした。

柏崎市を中心として被害の広がった今回の震災は、規模こそ前回に比べ小さかったものの、やはり多くの方が被災され、我が家から離れての不自由な避難所生活を強いられることとなりました。人間同様被災した動物たちに対する有効な支援を把握するために、地震発生5日後の7月20日から23日の4日間、現地ボランティアを手伝いながら、被災地における現状を見てまいりましたので、その概要を報告させていただきます。

地震発生翌日に救済本部立ち上がる

現地では、地震発生の翌日7月17日に、新潟県・㈳新潟県獣医師会・㈳新潟県動物愛護協会の3団体で構成された「新潟県中越沖地震動物救済本部（事務局：新潟県生活衛生課）」が立ち上げられました。現地対策本部は柏崎地域振興局健康福祉部（柏崎保健所）の駐車場内に設置されていました。

発生翌日という迅速な対応は前回の教訓が生かされた結果であろうと思います。現地対策本部には、県職員を始め、獣医師やボランティアが待機しており、**①ペットフードなどの物資の無料提供、②動物の応急措置、健康管理などの相談、③一時預かり受付など**、ペットに関する支援を行い、また預かりの動物は県内5ヶ所の動物保護管理センター（上越・中越・下越・魚沼・県央）に収容することも決定されており、そういった支援活動についての広報（報道・避難所へのチラシ配り）も同日すでに開始されていました。

☆

避難所へ視察

7月20日（金）、緊急災害時動物救援本部（日本動物愛護協会、日本愛玩動物協会、日本動物保護管理協会、日本獣医師会及び日本動物福祉協会で構成）のメンバーの一員として現地入りをさせて頂きました。在来線が不通のため、東京から車で向かいましたが、目的地である柏崎保健所に近づくにつれ、崩壊した家屋、盛り上がった道路があちこちに見られ、地震の恐ろしさを生々と感じさせられました。保健所の車庫に設置された救済本部には、保護された子猫1匹と預かりの犬2匹が収容されており、相談者やペットフード希望者が若干訪れたものの、比較的落ち着いた状況でした。早速、保健所から比較的近い避難所にいってみました。視察することができた3施設には、一部夜間のみ犬を連れてくる方がいるという情報があったものの、動物の姿は一切なく、相談やトラブルの話も伝わってきませんでした。また、本部より徒歩にて近くに出掛けたところ、散歩をされている方数組に出会いましたが、放浪している犬猫は、1匹も見かけることがありませんでした。散歩している方に話を聞いてみると、スーパーが通常通り営業しているので、特に困った事はないとのこと。今回の震災はガス・水道の不通で不自由はあるものの、物資の流通が確保されていた事は動物にとってもかなりの助けになっていたようです。

救済本部への相談件数が増える

7月21日（土）は、動物同伴が確認されたという11の避難所を、救済本部の方々と分担して回り、救済本部の周知・動物支援で必要とされていること・同行避難されている方への必要支援の把握に努めました。が結果として私達が視察した施設を含め、他の施設でも同伴のペットはほとんど確認されず、また動物に関するトラブルを避難所から相談されることもありませんでした。避難所は基本的に動物禁止となっており、11の施設は責任者の裁量により、その受け入れが一部許されていたようで、件数も少なく、すでに自宅にもどっている方もいたようです。動物がいる為避難所に行けず半壊の家に残ったままの方や、仕方なく動物だけを崩壊した家に残して避難所に来ている方がいらっしゃるであろうことは容易に想像できるものの、周囲への遠慮がある為か実際の声としては現状を把握することができませんでした。午後からは、東京にもどる緊急災害時救援対策本部メンバーと別れ、JAWSとして現地に残りお手伝いをさせて頂きました。全避難所に配布した支援活動のチラシ効果か、また震災後初めての土曜日とあってか、本日は昨日に比べペットフード希望や相談件数がやや増えました。一時預かり希望者も増え、成犬5匹成猫1匹それに保護動物として成猫1匹、子猫2匹が収容されましたので、救済本部は一時かなり賑やかになりました。お預かり、保護動物は、獣医師会の先生により飼い主さんへの問診と動物への簡単な健康チェック、混合ワクチンが未接種であればその場で接種して預かり、夕方動物保護管理センターに移送されました。健康状態に不安のある動物達は担当の獣医師が自身の動物病院に連れて帰り、獣医療を施してくださいました。

本部受付

小学校を訪問

7月22日（日）は、獣医師会の提案により学校飼育動物の現状把

握をすることになりました。19の小学校を4つの班に分かれて訪問し、物資や飼養面、獣医療面等困っていることはないか聞いて回りました。飼養動物は、金魚・コイ・うさぎ・チャボ・ハムスター・モルモット・ヤギなど各学校様々でしたが、水槽が落ちて割れたため亡くなった金魚や池から放り出された魚以外は概ね大きな被害はなかったようです。フードや床敷きも夏休み前とあってか大体数週間分のストックが準備されていました。しかし、突然訪問した私達への対応に、各学校の日頃の飼育動物への取り組みの様子を察することが出来、そしてそれが学校ごとに大きく違うことに少し驚きました。飼養状況については、ここで論ずべきことではないので控えさせていただきますが、災害時は誰もが自分の周囲のことで精一杯になります。学校飼育動物に対する責任はどう果たすのか心配が残りました。また、水槽が落ちて割れたという学校がいくつかあったことから、子供たちにとっても安全な飼養管理・使用設備・設置場所などは再考すべき課題であると思いました。午後は、救済本部でのお手伝いをしましたが、本日も窓口は比較的落ち着いていました。相談は食欲・元気が低下してしまった動物の事が多く、動物達も精神的ダメージを受けているのがわかりました。飼い主さんお世話型のペットハウス設置の検討もなされていましたが、実際必要としている方々の声が把握できない為、話が進まない状態でした。

発生翌日に柏崎保健所駐車場に設置された新潟県中越沖地震動物救済本部

本部を知らせる看板

クーラー付きコンテナハウス

7月23日（月）は、朝より救済本部にて受付や収容動物のお世話のお手伝いをさせていただきました。保護された親子ねこの仲むつまじさに心がほっとした一場面もありましたし、迷子届を出されていた犬が保護されていた犬であると判明し帰ることができ皆で喜んだという一場面もありました。この犬は飼い主さん宅が全壊してしまった為、知人宅で預かっていた所、脱走してしまったとのこと。飼い主さんと同行避難できる場所があれば犬だって脱走を試みなかったかもしれません。ともあれ無事で本当によかったです。県内5ヵ所の動物保護管理センターへの動物収容が増えてきた為、中越のセンターにクーラー付きのコンテナハウスが設置されることになりました。

8月31日（金）に中越のセンターを訪れたときには、犬たちは順次飼い主のもとにもどり始め、頭数が減る一方、猫たちの預かりが増えて来ておりました。そこで、クーラー付のコンテナハウスを猫専用にし、センターの車庫に置かれていた猫ケージを移し、犬数頭は別のセンターに移動となりました。中越のセンターには県内の動物愛護団体がローテーションを組んで動物たち世話に来ておられ、当日も7人のボランティアがお手伝いされておられました。

新潟県によると、9月19日（水）現在、約150世帯が犬や猫のペットと同伴で仮設住宅に入られているとのことです。また同日には、獣医師が派遣されペットの予防注射や飼育相談などが無料で実施されました。

◎被災動物一時預かり頭数
（平成19年9月14日現在）
犬15匹、ねこ8匹、その他0匹
（県内5ヶ所合計）

◎動物飼育に関する相談受付件数

	犬	ねこ	その他
フード提供	95	53	1
一時預かり	36	26	4
飼育動物の健康	23	6	4
脱走届	10	20	1
ケージ貸出	12	2	ー
引き取り	4	6	ー

新潟県福祉保健部生活衛生課 発表（平成19年9月14日現在）単位：件

雑感

♥4日間の滞在で、目にした動物が少ないことに不思議な思いがしました。放浪している犬猫を見かけることはありませんでしたし、本部窓口が混乱するといったこともありませんでした。被災動物が本当に少なかったのであれば幸いなのですが…。

ペットは家族・動物も大切ないのちという認識の中、どうしたら動物の安全が確保できるかは関係自治体、学校、家庭等、それぞれの立場で考え、それぞれが準備しておくべき事だと思います。動物の安全を守ることは、必ずヒトと社会の安全を守ることにつながるからです。

♥視察途中で、自宅が全壊したにもかかわらず、5ヶ月のT・プードルと無事に避難することのできた女性に出会いました。彼女は、愛犬に対しクレートトレーニングをしっかりしていたことが幸いして、地震発生時かなり興奮状態だった犬を素早くクレートに確保でき、自らも迅速に家の外に脱出することができた事を教えてくれました。日常的なトレーニングが、犬自身、そして飼い主さんをも救ったのです。

（菅野多恵・JAWS本部）

平成19年度
捨て犬・捨て猫防止キャンペーン

今回の対象地区：北海道 & 広島県

不幸な捨て犬・捨て猫を防止する不妊・去勢手術の徹底普及のため、本年度も「捨て犬・捨て猫防止キャンペーン」を実施いたします。今回のキャンペーン対象地区は、㈳北海道獣医師会および㈳広島県獣医師会のご後援をいただき、北海道と広島県になりました。メス1頭に対し1万円、オス1頭に対し5千円の不妊・去勢手術費の助成金を支給いたします。北海道在住もしくは広島県在住の方はぜひご応募ください。応募期限は平成**19年10月31日**（当日消印有効）です。詳しくは各県の獣医師会、動物病院もしくは当協会にお問い合わせください。応募多数の場合は抽選にさせていただきます。

お知らせ

新潟県中越沖地震動物救済本部（事務局：新潟県生活衛生課）では被災した動物やその飼育者の支援を行うため、募金を受け付けています。

■郵便局口座振替による募金方法
郵便振替口座：00560-5-96424
名義：新潟県中越沖地震動物救済本部